

「ほっとやまはく」 タイム⁶⁰



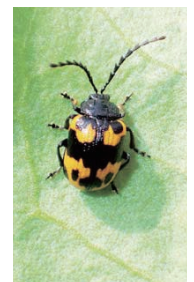
里山の春を楽しむ



観察地の山口市鴻ノ峰
糸米川砂防園（昨年3
月25日撮影）

山口市の鴻ノ峰で月2回の生物調査を始めて9年がたちました。毎年3月になると急に虫たちの活動が活発になります。暖かな日であれば、サクラやオオイヌフグリなどの花に、蜜を求めてハナアブやミツバチの仲間がやって来ます。私たちを楽しませてくれる、春を告げる昆虫を紹介したいと思います。

④ イタドリハムシ



テントウムシ擬態のイ
タドリハムシ（コウチ
ユウ目ハムシ科）

硬い殻を持つ甲虫類の中には、植物の葉を食べる仲間がいます。その代表がハムシです。3月、芽吹いたばかりのイタドリの葉が食べられている株を見ると、黒色にだいたいの色の紋が目立つイタドリハムシを見つけることができます。急に近づくと、

飛んだり、下に落ちたりするので、気付かれないように近づきます。ハムシの中には毒を持つテントウムシに擬態している種が多く、その代表がこのイタドリハムシです。だいたいの色の紋は個体ごとに違います。3月の暖かい日に見ることができ、ハムシは、冬を土の中に潜って冬越した個体です。

① ビロウド ツリアブ



① ビロウド ツリアブ

日だまりに咲くオオイヌフグリなどの小さな花の上では、ホバリングしながら盛んに蜜を吸っているビロウドツリアブが観察できます。特徴は長く伸びた口である口吻（こうふん）と胸や腹の部分をビロード状の毛で覆われた体です。近づくると、ブーンという羽音が聞こえます。3月から4月にかけて暖かな日中に普通に見ることができ、夏になると姿を見掛けなくなります。幼虫は、小さなハチであるヒメハナバチの仲間の土の中にある巣に寄生して、ハナバチが運んできた花粉などを食べて育つようです。ビロウドツリアブに会った春を感じることができます。

③ ヒメツチ ハンミョウ

ヒメツチハンミョウは青い光沢のある体で目立つ昆虫です。飛ぶことはできないため、地面を歩いているのを目撃することが多いです。カンタリジンという毒を持ち、脚の関節部分から出すので、素手では触らない方がいいと思います。ゆっくり歩く姿を観察できるのは、毒を持つことで身を守ることができる証です。ヒメツチハンミョウの生活史はとも変わっています。メスは数千個の卵を土の中に産み、ふ化した幼虫は近くにある野草

⑤ トビモンオオ エダシヤク

ヒメツチハンミョウ（コウチユウ目ツチハンミョウ科）の雄（右）と雌



② ツマキチョウ

白いチョウというと



ツマキチョウ（チョウ目シロチョウ科）の標本（左が雄、右が雌）

ツマキチョウ（チョウ目シロチョウ科）の標本（左が雄、右が雌）

トビモンオオエダシヤク （チョウ目シヤクガ科）



シャクトリムシは、庭木や公園で普通に見ることができ、ガの仲間の幼虫です。その中で体長が9センチになる大型の幼虫の代表がトビモンオオエダシヤクです。2月のいつも車を止めている駐車場にあるトイレの壁にトビモンオオエダシヤクが止まっていた。こんな寒い時期に発生することに驚きました。

田中浩（動物担当芸員）

▽次回は4月3日です。

山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで。

